

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



新しくつくった第2苗圃「白登育苗基地」で、トウヒの苗を植える。背後に見える建物は管理棟(大同県)

### Contents

- 第11回会員総会のご案内 ..... P 2
- 『雁棲塞北』出版記念会、北京で開催 ..... P 2
- 夏の黄土高原ワーキングツアー案内 ..... P 3
- 春の黄土高原ワーキングツアー報告 ..... P 4

2005.5

103

## 緑の地球ネットワーク 第11回会員総会のご案内

4月に中国で吹き荒れた(かに見え  
た)反日デモ。ご心配をいただきましたが、GENの活動にはまったく影響がなく、春のワーキングツアーも無事終  
えることができました。高見事務局長  
の『ぼくらの村にアンズが実った』中  
国語版、『雁棲塞北』の出版記念会も日  
中両国から120余名の方に集まってい  
ただき、あらためてGENの活動をさ  
さえてくれるたくさんの方々のパワー  
を実感することができました。

日本国内でGENの活動をささえる  
人といえば、まず会員です。年に1度  
の会員総会がもうすぐです。今年は、

環境をテーマにはびひろく研究され、  
最近では中国の環境問題に正面から取り  
組んでおられる京都精華大学の山田國  
廣さんに記念講演をおねがいしました。  
懇親会も鋭意企画。ぜひ、ご参加く  
ださい。

なお、GENの会員総会、記念講演、  
懇親会には、会員以外の方でも傍聴・  
ご参加いただけます。事前にお申し込  
みください。

### 【緑の地球ネットワーク

### 第11回会員総会】

- 日時：6月18日(土)13時30分～
- 会員総会：13時30分～14時40分

○記念講演：15時00分～16時30分  
『循環経済政策によって中国の水問題  
は解決できるのか』

山田國廣さん(京都精華大学教授)

○懇親会：17時～19時。軽食つき。  
会費1,500円(予定)

●場所：大阪市立総合生涯学習センター  
第1研修室(大阪駅前第2ビル5階  
各線「梅田」駅、JR「大阪」駅/東  
西線「北新地」駅)

★懇親会の企画・世話係を募集してい  
ます。希望者はGEN事務所までご連  
絡ください。

### 『ぼくらの村にアンズが実った』中国語版

## 『雁棲塞北』出版記念会、北京で開催

『ぼくらの村にアンズが実った』(高  
見邦雄著・日経新聞社、2003年)の中  
国語版『雁棲塞北～来自黄土高原的報  
告』(李建華・王黎傑訳・国際文化出版  
社)の出版記念会が、4月25日北京で  
開催されました。中国職工対外交流中  
心・中国国際文化出版公司・北京東方  
之星綜合企画の主催で、出席者は日中  
あわせて120人を超えました。大同・  
北京から多くの関係者が参加したのは  
もちろんのこと、中国各地、遠くは広  
州から、そして日中交流界の長老格か  
ら学生、マスコミなど様々な顔ぶれが  
集まりました。日本からもGEN世話  
人など10数人が駆けつけました。

司会は、中国職工対外交流中心の白  
立文副秘書長。中国語と流暢な日本語  
を駆使しての司会でした。

あいさ  
つのトッ  
プバッ  
ターは、  
中華全国



総工会書記処書記の張秋儉さん。  
つづいて中国語版の序文を書いて  
下さった劉徳有さん。そして作者  
である高見事務局長が、感謝の言  
葉を述べました。

その後、国際文化出版社の総経理の  
張貴来さん、大同市総工会の柴京雲さ  
んと挨拶が続き、中国共産党中央対外  
連絡部副部長の劉洪才さんが乾杯のあ  
いさつをしました。

皆、この本に対する思い入れが強く、  
挨拶は延べ1時間半におよびました。

日本語と中国語が入り乱れる中、旧  
知の友人が久しぶりに顔を合わせ、ま  
たこの日が新たな出会いの場ともなり、  
閉会後もたくさんの方が名残惜しそ  
うに会場に残って歓談を続けました。

カウンターパートである大同の関係  
者が、感慨深げに本を読んでいた姿が  
何より印象的でした。

直前に、中国各地で反日デモが行わ  
れ、日中間が緊張状態にある中での出  
版となりましたが、参加者一同、この  
時期だからこそ、中国での出版がより  
意義深いものになったとの思いを強く  
しました。

なお、『雁棲塞北～来自黄土高原的報  
告』の出版に際しては、(財)サントリー



文化財団より助成をいただきました。  
(会田)

\*\*\*\*\*

『雁棲塞北』は、GEN事務所でも取  
り扱います。価格は1冊1,000円(送  
料別途)です。『ぼくらの村にアンズ  
が実った』全部の翻訳にくわえ、中  
国語版のために水問題にかんする1節  
が書き加えられています。ご希望の方  
はGEN事務所までご連絡ください。な  
お、手元の在庫が少なく、追加を手配中  
のため、発送まで時間がかかる場合が  
あります。あらかじめご了承ください。

中国でお買い求めの場合は、全国の  
新華書店が取り扱っているはずですが、  
注文その他は下記まで。

出版公司：国際文化出版公司  
住所：北京市朝陽区東土城路乙9号(郵  
編100013)  
電話：010-64271187、64279032  
FAX：010-84257656  
E-Mail icpc@95777.sina.net

**ご協力****ありがとうございます**

昨年度、松下電工（株）から『緑いっぱい省エネスバックインキャンペーン』の対象として“カササギの森”に協力をいただきましたが、今年度も130万円の協力が決まりました。

このキャンペーンは松下電工の省エネ照明器具普及のために、対象製品が採用された数に応じて緑化基金がGENにおくられるというものです。第14回地球環境大賞（フジサンケイグループ主催）を受賞されました。

**書き損じハガキ・古切手等  
回収好調！**

『緑の地球』前号で、ステッカーを同封して書き損じハガキ、古切手、未使用のテレカ等回収の呼びかけをおこなったところ、たくさんの方にお送りいただきました。ありがとうございます。使用済みプリペイドカードの回収は6月末で終了しますが、下記の品目は回収をつづけます。気軽にできる国際環境協力活動として、今後ともよろしく願います。

- 古切手
- 書き損じハガキ
- 未使用の切手／ハガキ／商品券／テレカ
- 外国コイン
- ★小銭募金もつづけています！

**GEN 自然と親しむ会  
初夏の馬ヶ背国有林を楽しむ**

昨年11月の間伐作業が好評だった馬ヶ背国有林で、また「自然と緑」のスタッフに指導いただき、簡単な作業と山遊びを計画しています。初夏の山林で爽快な汗を流しましょう。

- 日時：5月29日（日）10時～15時頃まで
- 場所：滋賀県比良山麓の馬ヶ瀬国有林
- 集合：午前10時 JR湖西線「北小松」駅前
- 参加費：一般700円、中学生以下200円（保険料を含む）
- 持ちもの：作業のできる服装、弁当、飲みもの、手袋、雨具、タオル
- 定員：20名
- 申込み：5月24日までにGEN事務所へ
- 協力：NPO 自然と緑

**自然と親しむ会 万博公園で  
復元された植物を観察しよう**

1970年に開催された大阪万国博覧会の跡地は、総面積264haのうち99haがその後自然文化園として整備されました。いったん人の手によって自然が破壊された土壌の上に、30数年をかけて復元された森林は今うっそうとした照葉樹林や雑木林となって、都会から近場の森として親しまれています。

7月の緑濃い一日、植物の観察を楽しみましょう。

- 講師：立花吉茂さん（GEN代表、花園大学客員教授）
- 日時：7月3日（日）10時～15時頃まで
- 場所：万博記念公園 自然文化園
- 集合：午前10時万博公園中央口前
- 持ちもの：弁当、飲みもの。天候に応じて帽子、雨具。ポケット図鑑があればお持ちください。歩きやすい靴でご参加ください。
- 参加費：一般700円、中学生以下200円（入園料は含まない、保険料を含む）
- 申込み：6月29日までにGEN事務局まで

**2005夏の黄土高原ワーキングツアーのご案内**

大同でのGENの緑化協力も14年目になり、成果が目に見えるようになってきました。初期に植えたマツは人の背丈を越え、小学校付属果樹園のアンズもあちこちの村で収穫できるまでに育っています。そんな造林プロジェクト以外に、育苗や技術向上、地域の自生種を主にした樹種の多様化のための協力拠点をいくつもつくってきたのが、GENの協力の特徴です。

ワーキングツアーでは、まず造林プロジェクトに参加し、農村生活を体験してから、カササギの森や環境林センターなどの拠点で見学、作業をおこなう。GENの活動の一環にふれてもらいます。「三農問題（農業、農村、農民）」の見本のような大同で、厳しい環境のもと、緑化にとりくむ村の人たちといっしょに木を植えるとき、感じるものがきっとあります。

- 日程：7月30日（土）～8月6日（土）
- スケジュール案（訪問する県は変更になる場合があります）
- 7月30日 午前8時関空集合。午後、北京着。列車で大同へ。大同泊
- 31日 天鎮県へ。地球環境林で作業。
- 8月1日 小学校付属果樹園で作業。

- 2日 渾源県へ。小学校付属果樹園で作業。農家でホームステイ
- 3日 カササギの森、白登山苗圃で見学と作業。大同泊
- 4日 雲崗石窟、万人坑見学。環境林センター見学と作業。夜行列車で北京へ。車中泊
- 5日 早朝、北京着。終日、北京観光（自由行動可）。北京泊
- 6日 朝、北京空港発。午後、帰着
- 費用：一般＝178,000円、学生＝168,000円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、GEN年会費を含む。個人行動時の費用、旅券取得費用、空港施設使用料、航空保険料は含まない。人民元の大幅な変動があった場合、費用が変更になることがあります。）※中国国際航空利用 ※関西空港発着（今回は成田便の航空運賃が高く、スケジュールの都合もあるので、関空発着のみとします。）
- 訪問先：山西省大同市（北京経由）
- 定員：30人
- 申込み締切：6月20日（ただし、定員に達し次第締め切ります）

# 農家のお父さん、お母さんの優しさに感動

## 2005 春の黄土高原ワーキングツアー報告

今春の黄土高原へのツアーは3組。GEN (3/27～4/3、27名)、イオン労組 (4/1～6、19名)、OFS (オリエンタルランド労組、4/5～11、23名)。GENのツアーとイオン労組のツアーでは体調をくずす人が多くでたり、OFSのツアーでは遅い降雪にあってたり、ハプニングとは縁が切れない黄土高原ツアーですが、大同の人びとといっしょに木を植えるなかで、反日デモの影響もなく、交流をふかめてきました。GENのツアー日誌からの抜粋と、各労組のツアー参加者の感想を紹介します。

### 【3月28日(月)】

●車は快適に真直ぐなポプラ並木を走る。柳は塩害に強い木だとか。車内の説明も楽しい。50年たっても、ひこばえのような小老樹。

黄土は170万年前から吹き流されて積もった堆積土200m、風成土。何もかもケタ違い。

懸空寺に到着。道教、儒教、仏教がミックスされた崖の上の寺。北魏の頃の建立。鳥取県の三佛寺投入堂が同じような様式なので、日本僧がこの懸空寺を見て帰国し、あの山の中に造営したのだと想像する。安藤忠雄さんが日本の最高の建築物だと話していられたが、元祖はやはり中国か。(今津偕子)

### 【3月29日(火)】

●何年か前に1度来たきりの黄土高原、大同の町の石炭の臭いは以前と少しも変わらない。

車の量と大きな建物が増え、さらに立派な道路ができて驚いた。

朝食をすませ自然植物園へ向かう。徒歩30分位。

おにごるみ、松、山桃などの苗木を植樹。久しぶりのスコップに力が入る。12時まで快い汗をながした。昼食後は1,300mの山まで植樹状況を視察にいくが、私は途中でやめにする。頂上まで登った人がいて拍手で迎える。

夕方、ホームステイ先の上北泉村へ。村の入口では村の人たちが総出で迎えてくれた。道の両側に着飾った子ども



たち、それを見守る親たちの列の中を「好」「謝謝」と言いながらいつのまにか踊りの輪の中に入って行く。この日のために皆さん全員が練習を重ねてきたのだと思うと、ありがたく、嬉しく思った。(甲斐紘子)

### 【3月30日(水)】

●8:30から木を植える作業。昨夜来、半数以上のメンバーが体調をくずし、多少意気下降気味。

丘の急な坂道を登る。一步一步に砂が舞い上がり、乾燥を実感。山道20分。段々のあちこちに直径70～80cmの穴、多数あり。列の先頭にいた小学生30名が2人1組になって、水を、高さ1.5mのアンズ等の苗を植えたところへそそいでゆく。数人1組になって作業をすすめるうち、子どもたちの歌声。北国の春、幸せなら手をたたこう、etc. が聞こえてくる。もうひとふんばりのエネルギーになった。

山の上から見ると、目の下には、ふくらんだ芽をつけ、春の訪れを待つかのような杏の森。全山ピンクに染まった風情を想像する。見事だろうなあ。(中川道子)

●農村に到着。小学生がおどりや演奏で出迎えてくれました。この村や近隣の村での戦争のできごとを高見さんから聞いていただけに、村をあげて歓迎してくれて、胸がいっぱいでした。

小学校につくと撮影会がはじまります。デジタルカメラはめずらしいのか、カメラを向けると、たくさんの子がわあーと集まってきます。キラキラの笑顔を向けてくれます。伊賀さんは得意の絵で子どもたちの似顔絵を描いてプレゼントしていました。すてきななあと思いました。(東野美沙子)

### 【3月31日(木)】



●今日は連日続いた晴天とは違って、くもった寒いお天気。防寒具を手にバスへ乗り込んで、一同白登山苗圃へと出発した。

開所式の後、シャベルを手に移動し、いよいよ本ツアー3回目の作業。自然植物園や上北泉で植林作業を体験をしているので、もう感覚はつかめているという、ほんの少しの自負の下、張り切って始動したまではよかったものの、苗の多さとその距離に恥ずかしながらへろへろになってしまいました。

作業終了後、事務所へ引き上げる途中、遠田先生から水のない土地において3、4月頃の植林作業がいかに大切か、土の中で凍った水を利用することの有意性についてのお話をうかがう。そして納得。(中亜由美)

### 【4月1日(金)】

●中国で生活していると必ず、日中の歴史問題について考えさせられる場面に出会います。戦争を体験したことのない私たち。歴史の授業で何度となく戦争について勉強してきたものの、やはり実感がわかなかった。中国人に、歴史について、戦争について、侵略戦争について意見を求められたとき、うまく答えることができずに何度も悩みました。でも私が日本人であり、中国語を学び、中国人と交流する以上、この問題は避けては通れない問題です。



でも今日万人坑へ行って、私の中であいまいな“戦争”のイメージがかなり現実感を帯びたものになりました。

ごみのように積み重なる白骨の山。

このショックはうまく言葉に表すことはできません。

戦後いちやく復興し、戦争という過去が忘れ去られようとしている日本、いまもその歴史を過去のものとしていない中国。被害者の傷は加害者よりも、何倍も何倍も深いのです。当然なんでしょうけど……。

この万人坑を見て、あらためて中国人の傷の深さ、叫びのようなものを感じ

ました。

さらに、昨日の霊丘県の農村での暖かい歓迎、農家のお父さん、お母さんのやさしさ、それらを振りかえってみると、GENの方々のこれまでの苦労、努力が思われ、あらためて感動しました。(西山豊美)

●環境林センターに着いたのは昼過ぎであった。まず、食事をとり、空腹を満たす。その頃から雨が降りだす。今まで生きてきた中で、これほど雨をうれしいと思ったことはなかった。乾燥地の土地を潤してほしいと感じた。

環境林センターの見学。うまくいえ

ないが、少しずつ育つ苗木が、やがて大同の街を緑でうめつくして、環境林センターも自立できる、自然の流れのように共生できればと感じた。

緑化にとって、水がこれほどまでに重要な要素を占めるとは、考えてもみなかった。だが、その全てを対象に取り組んでいる環境林センターの働きに深く共感した。(三木良彦)

## 中国黄土高原ワーキングツアーに参加して

永田 順子 (ジャスコ品川シーサイド店)



黄土高原ワーキングツアーはいいよ!!と参加した人たちに聞かされていましたが、参加して初めてその意味がわかりました。

中国の黄土高原が砂漠化している、植樹して表土の流出を防がなくてはいけない。知識としては知っている。しかし、TVや新聞で知ったような気がしているのと、現実に体験するのとはここまで違うものなのか、と痛感させられました。

1年間で赤道27周分も流出して黄河に流れ込むという黄土高原の土。表土が流れて丸裸の山々。それでも比較的水に恵まれた下流の地域と、井戸も涸れるほど水の不足する山の上の村々。しかも、下流の地域で豊富に水を使うことによって、上流の山の上の地域の水が枯渇するという。

世の中は不公平なものだとわかっている、その格差を目の当たりにするとやるせない思いがするととも

に、自分たちが普段生活をする社会の中でも、どこかで誰かの大切なものを搾取しながら生きている可能性がある、ということを忘れないでいたいと強く思います。

しかし、厳しい自然の中で雨がふらずに不作になるか、家が流されるような大雨になるかというような環境で生活している人たちは、決して不幸には見えず、特に子どもたちの目は澄んでいて、輝いて見えます。

私たち日本人は衣食住には苦勞せず生きることができて、あふれるほどのものを持っています。なのに、

## 中国の大地でのつながい

佐藤 陽子 (OFS エグゼクティブ)

4月初旬、まだ日本では春の麗らかさを感じることもなく、我々の団23名は中国の地に立った。北京に到着後すぐに大同市に移動し、2日目の午前中に地元の小学生と一緒に植樹活動をおこなうこととなる。最初は恥ずかしさからか遠慮がちであった小学生だが、我々がバケツリレーで水と砂を運ぼうと体当たりのジェスチャーと見本を見せると少しずつ理解し、ラインに入って動けるようになってきた。そのうち「ハイハイハイ~!!」というか

け声を面白がるようになり一緒に声かけができるようになった。言葉はほとんど通じないのに子ども(次頁に続く)



(前頁からつづく) たちはこちらのやりたいことを理解し、それを楽しんでくれている!! 彼らの笑顔は言葉を越え私たちにダイレクトに気持ちを伝えてくる。なんという幸せな瞬間だろう!!

この大地は見渡してもほとんど乾燥した褐色しか目に入ってこないのだが、

この瞬間、私の胸は瑞々しい緑にも勝る潤いのある色に満たされたのであった。このように中国での植樹はただ単に砂漠化を防ぐという物質的な活動だけではなく、国を越えた人間同士の基本的な付き合い方や思いやりを再確認し根付かせていける精神的な活動であ

ると感じた。この大地に植えた我々の気持ちの根が枯れることなく成長することを願うと同時に、このような機会を与えてくれた中国の大地や我々を迎え入れてくれた村の方々、ホームステイ先の家族に感謝してやまない。謝謝。

## 植物屋のこぼれ話 (続編) その3

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

### ●熱帯雨林がなくなる

南米の上空を飛ぶとアマゾン地域はいつも火煙が上がっている。ものすごいスピードで熱帯雨林が消えつつあるのがわかる。ブラジル政府は火付け犯人や無届け伐採人を飛行機で監視して取り締まっているが、広大な土地だけに目こぼしが多いらしい。熱帯雨林はかつてアフリカ中部、東南アジアとアマゾン地域にあったが完全な形で残るのはアマゾンだけである。それがどんどん消えていく。このままでよいのか?

何とかしなければならぬ。だが一向に世間の人びとは無関心である。

スケールが全然違うが、奈良の春日山原生林が日本の低地の森林として唯一無二のものだ、と現地でも説明したら「えっ、本当ですか?」との声があがってこちらがびっくりしたことがあった。小規模なものなら西日本にはところどころに照葉樹林はみられるが、こんな古木のある大きな規模の林はない。アマゾンについても同じような理解であるらしい。図1を見ていただこう。これは世界各国の専門家集団の書いたもので、極めて信頼度の高いデータである。1940年にすでに40%消失し、2035年に全滅するという予測である。あと30年でなくなるのである。さらに、17%になったらあまり利用価値のないものになってしまうという。それまであと15年しかないのである。みなさんどう考えますか? じっとしていいのでしょうか?

日本のある医師団が一坪運動でアマゾンの保護に乗り出してかなりの面積

を確保しているとの話を聞いたことがある。これはすばらしいことである。このような運動がどんどん広がってほしい。

### ●熱帯雨林の価値

植物体は炭素(C)から成り立っている。CO<sub>2</sub>をC + O<sub>2</sub>としてくれるのが植物である。大型の森林であればシ

ベリアやカナダの大森林は大きな面積があるから、地球の空気をきれいにしてくれているはずである。だが、なぜ熱帯雨林なのか? それはふたつのわけがある。ひとつは夏も冬も同じように働いてくれていること(図2)である。ハワイのデータは北半球のもので冬、夏でギザギザの線になっているが南極では地球平均で直線である。もうひとつの理由は、生物資源の大きな差である。北方の針葉樹林は材木の資源として重要であるが、熱帯雨林はラワン材もあり、比較にならないほどの遺伝資源がある。薬品、食用、その他、未開発の資源の宝庫であり、世界人類の生き残りのために必須の場所なのである。抗生物質だけではなく。有機化学その他のハイテクでどれほど人類に貢献できるか、はかり知れない巨大な財産なのである。もう15年でその働きが消えてなくなる! なくしたら人類滅亡が早くなることは間違いのないだろう。

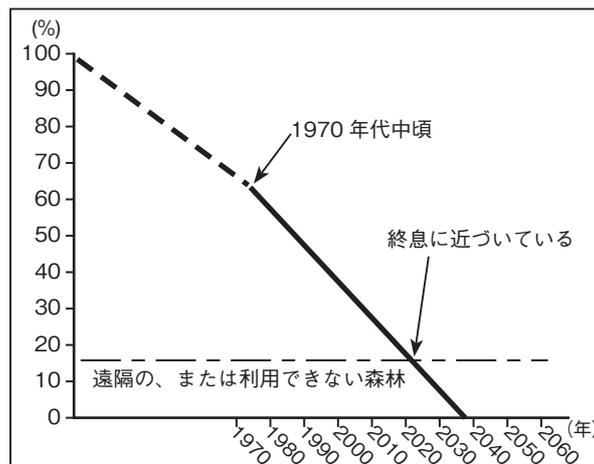


図1 世界の熱帯雨林の終息の展望 (Ecologist 10(1) 6 ~ 54 Grainger, A 1980 より)

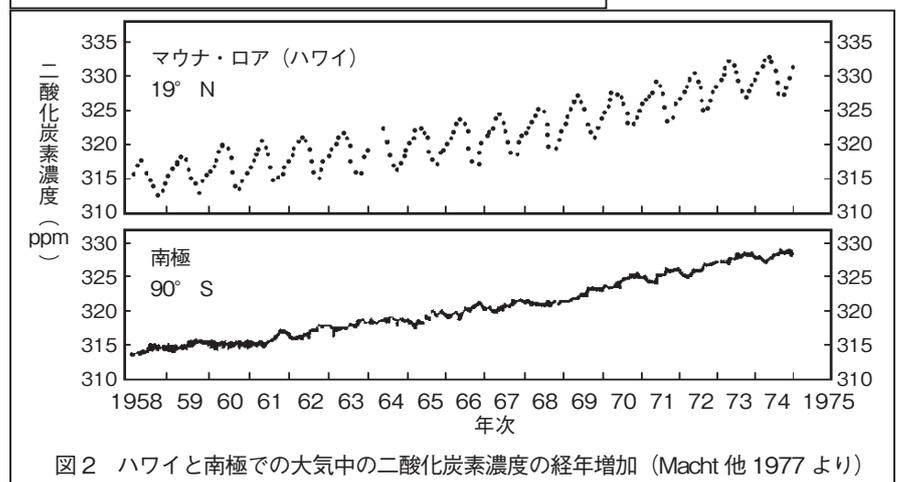


図2 ハワイと南極での大気中の二酸化炭素濃度の経年増加 (Macht 他 1977 より)

黄土高原史話〈25〉

## 死は何処に在りや？

この春、初めて広州へ。「食は広州に在り」というけれど、目的はハクピシンに非ず、西漢（前漢）南越王墓。第2代趙昧（B.C.137～121?）を葬ったもので、象崗山の上から岩盤を約20m掘り込んで造った石室墓です。

10年ほどまえ行った北京の大葆台西漢墓は、1号墓が武帝（B.C.156～87）ゆかりの広陽頃王劉健のもの。南北23.2×東西18m、深さ4.7mの大型木槨墓ですが、特筆すべきは内部の「黄腸題湊」。これには、ホント驚きましたね。黄腸というのは柏（コノテガシワ）の黄色い芯の部分で作った槨のこと。題とは端（はし）、湊とは会（あつま）るを意味するから、柏の黄芯を集めて積み重ね、その端を揃えるので、黄腸題湊と呼ばれるわけ。いわば角材の小口積み。若い頃、横穴式石室の小口積みを1個1個実測させられ、ホトホト参った経験があります。長さ90cm、切り口10cm四方の角材1万5880本が、高さ3m積み重なり、総長42m。この内部の前室がいわゆる便房で、被葬者の霊が起居飲食するところ。後室には二重の槨と三重の棺が安置。

谷口 義介（摂南大学教授）

『後漢書』霍光伝によると、霍光（?～B.C.68）が死んだとき、朝廷から、梓宮（梓で作った棺）・便房・黄腸題湊・椗木外臧椗（副葬品を納める槨）、その他を下賜されています。

1999年に北京で見つかった老山遺跡では、513本の角材を以って、幅5m、高さ2.5mに積み上げている。ただしこの「題湊」、コノテガシワではなく、栗と松の混用らしいので、「黄腸」に非ず。黄腸を用いるのは、それが芳香を放つから。陝西省鳳翔県の秦公1号大墓も、黄腸題湊。戦国時代の諸侯や漢代の諸侯王クラスの槨室で、時おり見られます。

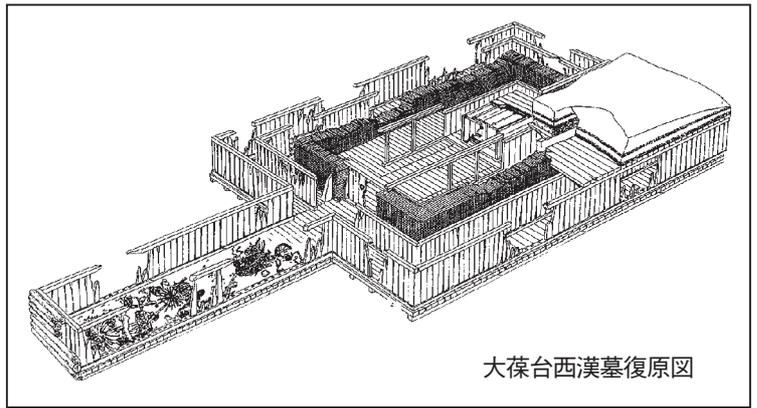
柏か栗か松かはともかく、この題湊というのはトテツもない木材を必要としたわけですが、そもそも北中国では新石器時代以来、大型墓・中型墓といえは木槨木

棺墓が一般的。木材を所要の長さに切り揃え、丸太のままか板状・方柱状に加工して、これを横架・縦架することで、棺を納める空間を地中に確保。つまり木槨墓というのは、木材多消費型の墓制です（小型墓の木棺にも、木を使うことは自明）。

山東省の大汶口10号墓を初見として明・清時代まで続きますが、華北では大径木を使った木槨墓は前漢中頃にはなくなり、レンガを用いた墓制に変化。もちろん森林の減少に原因があります。ところが、明・清になっても、江南では存続。

「死は柳州に在り」

柳州は南中国の広西省で、棺に適するヤナギの木が多いことから。明・清時代になってきた諺ではないでしょうか。



大葆台西漢墓復原図

## めこの人 この人



おばあさんの糸紡ぎに興味津々（98年のツアーで）。

から7年が経ちました。

現在私は、東京で農業の教諭として日々奔走しています。早くも4年目になりましたが、相変わらずばたばたしています。初任では避難中の都立三宅

みなさん、お久しぶりです。98年春のツアーに参加した岡田満江です。早いものでツアー

高校に、この4月に都立園芸高等学校園芸デザイン科へ異動しました。三宅高校在任中の思い出、そして今につながるエピソードを書きたいと思います。

昨年春、私は生徒と三宅島に行く機会がありました。硫黄の臭いが漂う港。火山ガスが多く流れる地域の木は枯れ、茶色の雄山に白い骨のような枯れ木が一面にありました。三宅島は噴火で壊滅的な打撃を受け、森林全体の6割（約2,500ha）が消失してしまいました。生徒たちが小さいころに訪れた村営牧場も、緑の影さえ見つけられませんでした。

同行した当時の校長とこんな話をしたのを覚えています。「私はこの先ずっと、どこに行っても島の緑を心配し、細々とヤシヤブシなどの苗を作って、三宅島と関わっていくのでしょうか。」

今の職場の園芸高校は、日本初の園芸学校として開校した伝統のある学校です。そして、昨年度から三宅高校と「三宅島緑化プロジェクト」で連携を始めました。園芸高校への異動はまったく予想外だった（希望もしていなかった）のですが、よく考えてみると三宅高校でも関わっていたので、自然の流れだったのかもしれませんが。「三宅島緑化プロジェクト」は生徒有志の活動であり、三宅島に自生していたヒサカキやヤシヤブシを増やし、育てています。4月からは1年生も大勢参加し、活動しています。「緑化」と「私」が自然の流れでリンクしたのが不思議です。

きっと GEN との、そして皆さんとの出会いも、私にとって大きな流れのひとつなんだと思う今日この頃です。

情報ひろば

いっしょなかたち

京都自然めぐり

自然を通じて

子どもと遊べる大人になろう

第1回「自然の新しい感じ方、遊び方」

●講師：西村仁志さん（環境共育事務所  
カーズ主宰、環境市民理事）

●日時：5月28日（土）10時～16時

●場所：京都御苑 母と子の森

●定員：25名

第2回「子どもと遊ぼう、野外で、遊  
びわざ伝授」

●講師：板倉豊さん（京都精華大学助  
教授、環境市民理事）

●日時：6月4日（土）10時～16時

●場所：下鴨神社 糺の森

第3回「お父さんのための、夏休み直前・  
キャンプの基礎講座」

●講師：常住良保さん（自然保護協会

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。

\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

自然観察指導員）／余部衛さん（環  
境市民こもれび倶楽部）

●日時：7月16日（土）10時～17時

●場所：環境市民・こもれび小屋

以降、06年3月まで全10回。くわ  
しくは環境市民まで。

【対象】 高校生以上、子どもとの遊びわ  
ざを習得したいと思う人なら、子ど  
ものいる・いないは問いません。

【参加費】 一般 1回600円、全回通し  
参加券3,500円（保険料含む）

【申込み】 各回開催日の3日前までに  
環境市民へ。全回通し参加者を優先。  
定員に達し次第締め切ります。

【集合・注意事項等】 申込みの方に別途  
連絡します。

【主催・連絡先】 特定非営利活動法人  
環境市民（〒604-0932 京都市中  
京区寺町通二条下る呉波ビル3階

TEL. 075-211-3521 050-3410-6944  
(IP) FAX. 075-211-3531 e-mail :

life@kankyoshimin.org URL http://

www.kankyoshimin.org/)

編集後記

GEN 会員の紹介コーナー「あの人こ  
の人」、今回で3人目になります。いか  
がでしょうか。これまではみんな依頼  
稿なので、そろそろ投稿をいただきた  
いところです。自己紹介、GEN との関  
わり、アピールしたいことなどを600  
字程度にまとめ、顔写真（似顔絵か内  
容に関する写真でもOK）をそえて、  
GEN 事務所まで郵便かeメールでお送  
りください。お気軽にどうぞ！

そのほか、本や団体、活動の紹介など、  
また、会報への感想やご意見もお待ち  
しています。 (東川)